

日本睡眠学会第 45 回定期学術集会中止

パシフィコ横浜ノースにて 2020 年 9 月 25 日（金）～9 月 27 日（日）の開催に向けて準備を進めておりましたが、日本睡眠学会第 45 回定期学術集会と第 27 回日本時間生物学会学術大会の合同大会は、今般の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行状況の予測がひき続き困難であること、またそれに伴う首都圏における大型イベントの開催自粛などの社会情勢を受けまして、残念ながら中止を決断するに至りました。

2020 年 7 月

残念ながら、今年の日本睡眠学会の開催が中止となりました。睡眠歯科センターからも研究報告を用意しておりましたが、次回の学会を待つこととなります。同学会からの重要な情報はホームページを通じて入りますので、患者のみなさんに迷惑がかかることはありません。

睡眠歯科センターでは、昨年の日本睡眠学会のトピックとして本紙 10 巻 8 号で報じました「レム関連睡眠時無呼吸症候群」について研究を行い、新潟市中央区烏屋野のキタムラ歯科医院の北村雄樹先生（日本睡眠学会歯科専門医）が報告する予定でした。

北村先生らが文献を渉猟してまとめた「レム関連睡眠時無呼吸症候群」の特徴は以下とのことです。

1、疫学の特徴

- ①肥満女性に多い
- ②若者に多い

2、病態の特徴

- ③中途覚醒が少ない
- ④低酸素が軽度
- ⑤軽症の睡眠時無呼吸症候群に多い
- ⑥側臥位で改善しない
- ⑦通常の睡眠時無呼吸症候群の初期に現れる

3、形態の特徴

- ⑧上気道の形態に問題
- ⑨胸郭が広いと出やすい

4、その他の特徴

- ⑩ナルコレプシーに多い
- ⑪マウスピース装着で多い

そこで北村先生らは、レム睡眠とノンレム睡眠の呼吸障害の差に注目して解析を行い、その結果、レム睡眠中の呼吸障害の出現は P S G 判定の際の診断基準に影響されることが解りました。すなわち、もしレム睡眠で呼吸障害を過剰に診断してしまうと人工的に「レム関連睡眠時無呼吸症候群」を生みだしてしまうかもしれないとのことでした。